

# 「〇〇新聞を発行しよう!」(5年生)

勉強したことや体験したことを「〇〇新聞」にまとめて(～さんに)読んでもらおう!

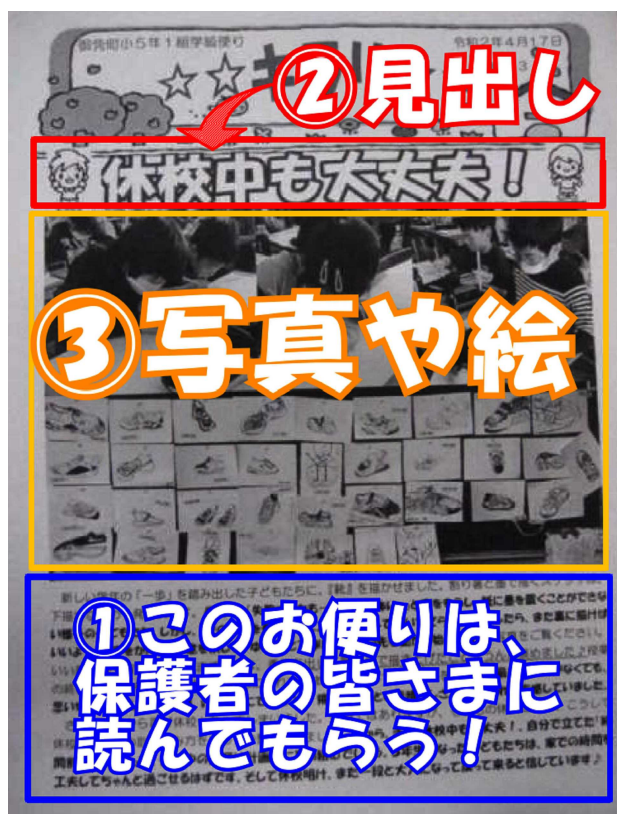
5年生は、休校前に校長先生から新聞の書き方について、学級便りの構成を参考にしながら分かりやすく教えてもらいましたね!



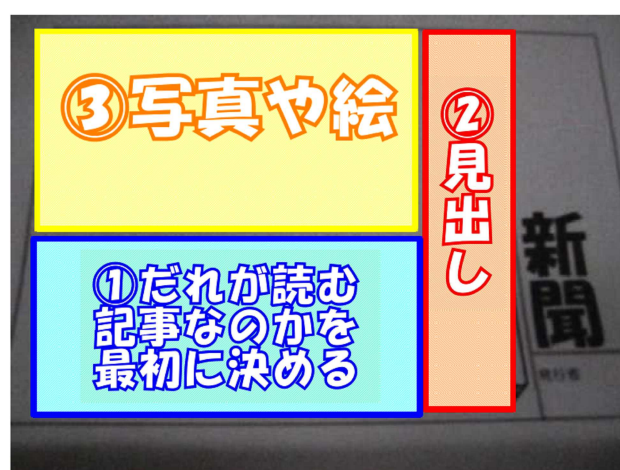
## 【読み手を引きつける新聞の秘密3つ】

- ① **誰に伝えるための新聞か**を決める
- ② **見だし**…一番伝えたいことを短い言葉で表そう
- ③ **写真や絵**…一目で様子が分かる工夫をしよう

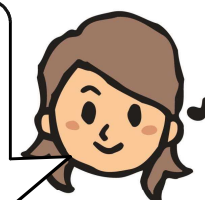
### 学級便りの構成



### 新聞の構成



平成9年10月15日の新潟日報に校長先生の記事が掲載されました。どんな記事かな↓





# 第2分科会 いじめ・不登校

いじめや不登校など教育問題について話し合われた第二分科会では、新発田市猿橋小の藤井聡教諭と馬場亨同市PTA連合会長が取り組みを報告した。問題の解決策の一つとして、「新聞を真ん中に置き、親子が話し合う生活」などの提案があった。

発表で藤井教諭は「学校と授業が楽しいということを子どもたちに感じてもらうのが教師の役目」と話し、いじめや不登校をなくすため、友だち同士のきずなを強めることを第一に心掛けていたと述べた。

具体的な例として、新聞記事を学級だよりに掲載し、親と子どもとも同士の対話の場を広げる取り組みを報告。マナーの悪い高校生についての投書、いじめ報道などの記事に対する感想を親子それぞれに書き込んでもらい、「互いのコミュニケーションをとって、多様

## 記事話題に親子で対話



教師と父親の立場から、いじめ、不登校防止への取り組みが発表された第2分科会

な価値観を分かり合う機会にしてみよう」と話に迷惑をかけない、など自分から教わったことを馬場さんは、中学生と小学生の四人の子育てる父親の立場から、家庭教育の食事の時間をコミュニケーション

## 親がモラル教える参考に

シヨンの好機として、子どももの悩みを聞き、自分の体験談を語る場としていると述べた。

また、思いやりのある子どもたちに育てるため「父親として道徳の基本をどう子どもたちに教えるか、新聞の記事を参考にしている」と語った。

会場からは記事について「保護者」という、母親でなく父親の名前ばかり出る「いじめや不登校に関して、学校や教師ばかりが悪い」という論調だったと思う。最近では変わってきたようだが」などの質問があった。

まとめとして司会・指導者の桜井忠夫新発田市嘱託指導主事は「神戸の連続児童殺傷事件報道が親と子、子ども同士などで話し合うための生きた教材となる。記事を読んだ感想を互いにどんどんぶつけ合おう」と話した。



## 新発田シンポジウム

生涯学習と新聞とのかわりをテーマにしたNIE新発田シンポジウム(新潟日報社主催)が十一日、新発田市の生涯学習センターで約百五十人が参加して開かれた。分科会では「新聞を通しての趣味」「いじめ・不登校」「地域づくり」の三つをテーマに、文芸しはた運営委員や教師・PTA、コミュニティ活動に取り組む人たちが、それぞれの実践を報告。今後の活動のあり方では、これまで以上に新聞を活用していく方向を探った。全体会では新潟日報NIEのページの「にいがた歴史物語・奥山荘の世界」執筆者の田村裕新大教授が、阿賀北の歴史に触れながら「子供たちには身近な素材から歴史を教えることが大事」といった講演を行った。各分科会の議論と講演の詳しい内容を紹介する。

NIE(エヌ・アイ・イー)とは、英語のNews paper In Educationの略。新聞を生活した教材として役立てようという取り組みのことです。